

9. マレーシア・ムダ稲作地帯におけるグループ・ファーム経営の利点と問題点

〔要約〕ムダ稲作地帯のグループ・ファームは、初期における信用の供与や技術情報の提供等行政主導の組織化が収益の高い経営を作り出す上で有効な手段たりうることを示している。しかし一方で、上からの組織運営に関する不安や自助努力の欠如など持続的発展の上で解決すべき問題も明らかとなった。

国際農林水産業研究センター 生産利用部, マレーシア農科大学 (UPM)		連絡先	0298 (38) 6307				
部会名	国際農業	専門	経営	対象	水稻	分類	行政

〔背景・ねらい〕

マレーシアでは近年非農業部門の成長が高まり、農業部門との収益性の格差が広がっている。このため、生産効率や収益性の向上が当国の稲作政策の緊要の課題となっており、グループ・ファームを通じた短期資金の融資と技術指導を背景とした小農の組織化が奨励されている。しかしその実態についての調査研究はまだ端緒についたばかりである。本研究では当国最大の稲作地帯を対象としてその実態を明らかにし、こうした組織が稲作生産力にどのような影響をあたえているかを分析した。

〔成果の内容・特徴〕

- マレーシア・ムダ地域では、灌漑水の効率的利用を目的として1978年以降稲作農民の組織化が着手されている。中でもPSPと呼ばれる組織は年々増加し現在129組織されている(図1)。調査事例のあるMADA-D II地区はムダ地区に27ある農業普及地区のひとつであり、1970年代からJIRCASが調査を継続している地区である。この地区では1990年に1組織しかなかったPSPが1996年には8組織に増加している。
- PSP加入は農家の自由意志にまかされる。加入農家は通常借入できる資金(RM250)を上回って(RM650)融資を受けることができ、普及員からの農業技術情報を優先的に得ることができる。また、各PSP独自で決定した活動も行っており、加入農家は十分便益を得ていると感じているが、同時に問題点も抱えていて組織の発展のために克服する課題は多い(表1)。
- 事例としたマタンピナン集落(農家数43戸)では16戸がPSPに加入し、27戸が非加入である(表2)。非加入農家と隣村からの加入10戸を含めて加入農家(26戸)の経営比較では、加入農家は投入材を多投し農業経営費が非加入農家に比較すると高いが、単収は非加入農家よりも約1割高いため粗収益は高くなっている(図2)。
- 調査結果は、制度的な短期信用の供与や農業情報の普及を伴ったPSP組織の優位性を示していると同時に、組織に加入していない多くの農家は十分な営農資金に欠き、農業情報が不足していることを示している。しかし、農家の中には組織に加入することによって、行政に個々人の営農の自由を管理されるのではないかという不安感から組織加入に二の足を踏んでいる者が多い(非加入農家のうちPSP加入の利点が不明とする者63%、運営方法に不満/不安がある者16%等)。
- 途上国において、農業活動の組織化は農家に資金を供与し情報を普及させる効率的な方法であり、こうした施策を通し農家の技術水準を向上させることが経営を持続する上で重要である。しかし、資金管理を普及職員まかせにし、自らで経営計画・管理を行えなくなっている農家もみられ、経営者能力の向上が今後の新たな問題となっている。こうした課題を克服することがグループ・ファームの拡大・存続条件であると考えられる。

〔成果の活用面・留意点〕

調査結果は新しいPSPを組織する場合、あるいは活動の停滞している組織を活性化する場合の資料として利用できる。

〔具体的データ〕

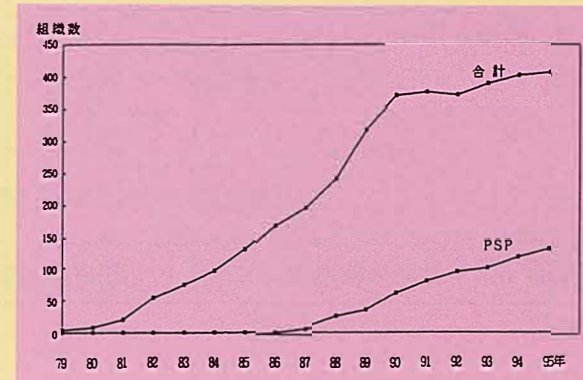


図1 ムダ地区におけるグループ・ファーム組織数の変遷



写真 PSP加入農家と普及員による会合

表1 PSP加入の利点と問題点(加入農家26戸の複数回答)

利 点		問 題 点	
借入金	農業投入材用の借入金が可能 (77%)	借入金申請手続きが遅い (12%)	
	非農業用途(食費・教育費)用の借入金が可能 (27%)	借入金返済の締め切りが厳しい (4%)	
農業資材の入手	農業資材や委託料金が安く手に入る (62%)	資材価格が他の小売り店より高い (8%)	
	無料で農業が配布されることがある (4%)	委託料金の設定が非加入農家と変わらない (8%)	
行政との関連		農業関係機関との連携が非効率 (19%)	
技術情報	普及員から技術的指導を受けられる (27%)	行政のコントロールが厳しい (4%)	
	他の加入農家を観察して知識が得られる (4%)	普及職員との討議が不足 (4%)	
	圃場で問題発生時、加入農家が相談にのってくれる (4%)	普及員が圃場まで見回りにこない (4%)	
農家間の関係	共同作業が時間や体力の節約になる (12%)	共同作業に従わない者がいる (15%)	
	加入農家のための積立金がある (7%)	借入金を返済しない者がいる (4%)	
	加入農家の親睦旅行がある (4%)	借入金を飲食費に使ってしまう者がいる (4%)	
	加入農家間で農業用具/機械の貸し借りができる (4%)		
	加入農家間の相互補助(冠婚葬祭)がある (4%)		

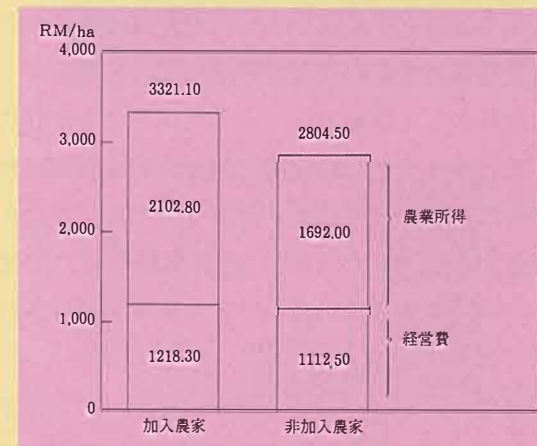


図2 PSP加入農家と非加入農家の経営効果

表2 調査農家の概要と経営上の問題点

	加入農家(26戸)	非加入農家(27戸)
経営耕地面積(ha)	1.7	1.2
家族労働力数(人)	1.1	1.3
収穫量(kg/ha)	4934.3	4505.5
経営問題(複数回答)(%)		
問題あり	10 (38.5)	18 (60.0)
病害虫発生	4	9
農業技術情報の不足	2	6
低収量	1	3
雇用労働力不足	1	3
土地の高度	2	1
雑草繁茂	1	1
天候不順	1	1
農業機械の不足	1	0
経営者の高齢化	1	0
地代の高騰	1	0
経営費の増加	0	1
圃場管理の時間がない	1	0
何も問題は無い	16 (61.5)	9 (36.0)
回答無し	0 (0.0)	1 (4.0)

〔その他〕

研究課題名: マレーシアの農業近代化過程における農業経営変化に関する研究

予算区分: 経常

研究期間: 平成5~8年度

研究担当者: 安延久美

発表論文等:

- Yasunobu, K., & Wong, F. Y. (1996). Paddy mini-estates and rice farmers in the Muda area: a new effort under the agricultural policy in Malaysia. In Yasunobu et al. Farm Management Development and Transformation under Agricultural Commercialization in Malaysia. Universiti Pertanian Malaysia.
- 安延久美(1997). マレーシア・ムダ地域における華人稲作農家とマレイ人稲作農家の経営比較. JIRCAS ニュース No.12: 4~5.